

青年部会 9月例会報告

青年部会恒例の9月例会「会員所感発表」が9月20日に事務局にて開催されました。

今回の例会には普段あまり例会に参加する機会のない

方や、これから青年部会に入会されるかもしれない方などが多数集まり、総勢24名で座席が足りなくなるほど盛況でした。

所感発表は、青年部会員である(株)ティアイティピソの近藤伸さん・(株)アジア航空サービスの大曾根渉さんと緑税務署から法人課税第1部門上席審理担当官の戸羽栄さんの三名の方が行いました。

まず、近藤さんから昔の苦労話や業界の動向の話、青年部会の活動の楽しさが語られ、次に戸羽さんから税務署内での仕事の覚え方(先輩・後輩の付き合いかた)と法人会の基本的指針についての説明と解説をしていただきました。大曾根さんは、何故現在の職業・会社をやるようにな

ったのかのきっかけを語られ、日本における「旅(たび)」の歴史や有益な旅行会社の利用方法・旅路での注意事項などを説明していただきました。

参加者の皆さんは、なごやかな雰囲気の中スピーカーの話当真に聞いていました。

所感発表終了後には、引続き懇親会が開かれ発表時には聞けなかった裏話などを聞くことが出来、非常になごやかに親睦を深めることが出来ました。

初参加や久しぶりの方も打ち解けた雰囲気の中、きっと次回以降も青年部会の例会に参加していただけるのではないかと確信を持ちました。

(長根記)



女 性 部 M C 研 修 会

「IT革命について」研修

本年度第一回MC研修会が、講師 木村憲二氏をお招きし、「IT社会での会社の生き残り」という演題で開催されました。

木村憲二氏は横浜市立大学文理学部卒業後、情報関連の仕事に約20年間従事し、現在MIND.Inc.代表取締役で、東海大学で講師もされています。また著書を数多く手掛けられておられます。

ITビジネスについて熱弁をふるっていただきました。

講師のいちばん力説されておられるのは、IT社会なくして、この世界は動かないこと、もちろん、ビジネスばかり、個人的生活をも巻き込んで、老若男女とわず、ゆりかごから墓場までITというものが浸透していることです。

さて、ここ数十年インターネットの仕組みを冷静に考えると、ITはとてすばらしいものに思えるのです。このITを会社で使用するとどうなるのか、ここ数年アジア各地を歩き来ました。特にめざましいのはインドです。インドがなぜIT革命に乗り遅れないようにしているのか。それは、過去にイギリスの植民地でもあり、属国で産業革命の時に遅れて、思うようにやれなかったからです。IT関係の技術者を高校や大学で本格的に育成する。そして英語を話せるため、米国への企業進出もしやすいし、米国一流企業以



上の最先端技術を持ったものが多いからです。日本の進出が遅れているのは、日本語の壁の隔りがあり、日本企業独特のやり方がネックとなっているからです。このため日本の企業ならびに社会全般において、他国(スウェーデン・中国・韓国・先進諸国)に比べて遅れがちである。インターネットの普及により、個人的に情報が入手しやすく、

従来通りの商売の在り方では、瞬時に顧客に接客するのが困難となるため、ここで改めて発想の転換が必要となり、いかに迅速に情報を入手するか、クモの巣のようにネットをはっていかなくてはならない。

要はIT情報を制するものが生き残るということです。地球的規模でみると、このようなIT革命は本物である。日本

のITソフトは米国におんぶにだっことで、接続してもウィルスが侵入して情報がもれてしまう。そこで日本が独自のソフトを真剣に開発すべきである。

今以上にメーカーでも官学共に人材育成が必要不可欠である。ITを無視して何が出来るか! 場当たりのやり方では、将来をみとおして行く力に欠けるため、日本社会全体が一丸となって対応していかなければ、会社としても生き残ってはいかれないということです。

(MC担当 涌井記)